

コロナ禍における支え合い活動状況 アンケート結果について

令和3年6月

お互いさま広げ隊

豊橋市 長寿介護課

目 次

1	はじめに	2 ページ
2	アンケート実施方法等	2 ページ
3	アンケート内容	3 ページ
4	アンケート実施結果	4 ページ
5	総括	8 ページ

1 はじめに

長引くコロナ禍にあって、その影響はこれまでの社会生活を一変させる事態となっています。国や地方自治体において推進してきた、介護保険事業の一環である、「通いの場」の普及（本市においては「支え合い活動」の普及）においても影響は甚大であり、人と人とのつながりが制限される状況下で、各支え合い活動団体（以下「各団体」という。）においては活動の自粛や縮小を余儀なくされています。

このような状況にあって、感染症対策を徹底するなどの対策を講じながら、活動を継続・再開する団体が一定数存在することは、お互いさま広げ隊[※]及び豊橋市長寿介護課においても把握しておりましたが、全市的な状況を把握するには至っていませんでした。

そこで、各団体のコロナ禍での活動状況や活動する上での課題、活動ノウハウ、創意工夫の事例等を情報収集し、必要に応じ各団体へ情報提供をすることで、活動継続・再開の一助とすべく、お互いさま広げ隊及び豊橋市長寿介護課において今回のアンケートを企画・実施しました。

今後も新しい生活様式に順応しながら、高齢者の介護・フレイル予防や生きがいづくりにつながる支え合い活動が一層普及するよう、各取り組みを推進してまいります。

※お互いさま広げ隊とは

豊橋市からの委嘱を受け活動している第1層生活支援コーディネーターや支え合い活動団体の活動者が中心となり、支え合い活動の周知・普及を図る取り組みを行う団体。

2 アンケート実施方法等

・実施方法

市の団体登録制度であるお互いさまのまちづくりネットワーク登録団体及び各地域包括支援センターが把握する支え合い活動団体に対し、郵送（長寿介護課）又は戸別訪問等（各地域包括支援センター及びお互いさま広げ隊）により配付。令和3年4月下旬頃より順次送付し、同年6月4日までを回答期日として、返信用封筒により長寿介護課が回収。

・送付数及び送付方法

方法	団体数	実施者
戸別訪問等	46団体	各地域包括支援センター、お互いさま広げ隊
郵送	60団体	長寿介護課
合計	106団体	

3 アンケート内容

コロナ禍における活動状況や各団体が感じている課題などに関する設問について、選択方式又は自由記述方式により回答を収集。各設問については以下の通り（一部省略して記載）。

- 設問1 現在、まちの居場所活動等を実施していますか。【択一】
（はい・いいえ）※「はい」は設問2へ、「いいえ」は設問7へ
- 設問2 コロナ禍での活動の実施方法について。【択一】
（これまでと同じ方法で実施・これまでと違う形で実施（自由記述））
- 設問3 現在の活動状況について。【自由記述】
（活動日時、活動場所、活動内容について自由記述）
- 設問4 活動を継続または再開するに至った経緯・理由について。【複数可】
（利用者等にとって生活の一部となっており必要とされているため・参加者等から継続、再開を望む声があったため・感染症対策を講じることができたため・活動場所が利用再開されたため・活動場所を変更したため・（中止等せず）活動を継続していた・その他（自由記述））
- 設問5 感染症対策で工夫したことについて。【複数可】
（人数制限・ソーシャルディスタンス・換気・検温・手指消毒・道具の消毒・その他（自由記述））
- 設問6 活動を自粛・中断している団体へのメッセージについて。【自由記述】
※設問11へ
- 設問7 再開の目途・時期について。【択一】
（活動を再開予定（具体的な時期について自由記述）・再開時期未定・団体を解散した）
- 設問8 活動を再開する上で不安に感じていることについて。【複数可】
（感染症対策が十分に行えるか・場所が確保できるか・担い手が確保できるか・団体内の感染症に対する考え方の違い・感染者が出た場合の責任の所在・その他（自由記述））
- 設問9 活動の自粛で地域の中で増加すると考えられる課題について。【複数可】
（体力の低下・認知機能の低下・会話機会の減少・引きこもり・ストレスの蓄積・その他（自由記述））
- 設問10 お互いさま広げ隊の派遣（助言や参考事例紹介）希望について。【択一】
（希望する・希望しない）
- 設問11 その他の意見や要望について。【自由記述】

4 アンケート実施結果

I. 回答数及び回答率

- ・送付数 106通
- ・有効回答数 63通
- ・有効回答率 59.4%

II. 各設問別回答内容

設問1 現在、まちの居場所活動等を実施していますか。

選択肢	回答数	回答率
はい	32	50.8%
いいえ	31	49.2%
合計	63	

回答をいただいた団体の内、活動を継続・再開している団体は50.8%、中止等している団体は49.2%であり、およそ半々という結果となりました。

設問2 コロナ禍での活動の実施方法について。

選択肢	回答数	回答率
同じ方法	7	21.9%
違う形	25	78.1%
合計	32	

活動を継続・再開している団体の内、コロナ禍前と同じ方法で実施している団体は21.9%、コロナ禍前と違う形で実施している団体は78.1%であり、多くの団体が何らか異なる形で実施しているという結果となりました。なお、違う形で実施している場合の、具体的な内容は主に以下のとおりです（一部抜粋）。

- ・施設の数制限により、会場を変更して実施（屋外での実施など）
- ・参加者名簿を作成（感染者等が発生した場合を想定し）
- ・感染対策物品購入経費のため参加料を100円徴収するようになった
- ・開催時間を短縮するようになった
- ・参加者の意見を聞きながら開催方法を検討
- ・報道内容を随時把握しながら開催の是非を検討
- ・カラオケ等大声を出す活動や飲食の自粛

設問3 現在の活動状況について。(活動日時、活動場所、活動内容について自由記述)

※設問3の内容については、各団体個別の内容になるため割愛します。

設問4 活動を継続または再開するに至った経緯・理由について。

選択肢	回答数	回答率*
必要とされている	17	53.1%
継続・再開を望む声	21	65.6%
感染症対策を実施できた	17	53.1%
活動場所が再開された	4	12.5%
活動場所を変更した	2	6.3%
活動を継続していた	16	50.0%
その他	6	18.8%
合計	83	

※活動を継続・再開している団体の各選択肢の選択率

活動を継続・再開している団体の内、継続・再開に至った理由として最も多かったものが「利用者等から継続・再開を望む声があったから」、次いで「利用者等の生活の一部であり必要とされているため」、「感染症対策を実施できたため」という結果となりました。

なお、「その他」の具体的な内容は以下の通りです(一部抜粋)。

- ・緊急事態宣言が解除されたため(当該期間において)
- ・自粛の中でも人とのつながりが大切であると考えたため

設問5 感染症対策で工夫したことについて。

選択肢	回答数	回答率*
人数制限	11	34.4%
ソーシャルディスタンス	27	84.4%
換気	29	90.6%
検温	19	59.4%
手指消毒	30	93.8%
使用道具の消毒	19	59.4%
その他	13	40.6%
合計	148	

※活動を継続・再開している団体の各選択肢の選択率

活動を継続・再開している団体の内、実施している感染症対策で最も多かったものが「手指消毒」、次いで「換気」「ソーシャルディスタンス」という結果となりました。

なお、「その他」の具体的な内容は以下の通りです（一部抜粋）。

- ・マスク着用の徹底
- ・水分補給
- ・家族の健康状態に気を配るなど体調チェックを徹底

設問6 活動を自粛・中断している団体へのメッセージについて。

活動を継続・再開している団体から、自粛・中断している団体へのメッセージは別添のメッセージ一覧をご参照ください。

設問7 再開の目途・時期について。

選択肢	回答数	回答率
再開予定 (時期の見通しあり)	12	38.7%
再開時期未定	17	54.8%
解散した	0	0
未回答	2	6.5%
合計	31	

活動を自粛・中断している団体の内、「再開予定（時期の見通しあり）」の団体が38.7%、「再開時期未定」の団体が54.8%という結果となりました。なお、「再開予定」と回答した団体の、再開予定時期は以下のとおりです（一部抜粋）。

- ・緊急事態宣言解除後
- ・ワクチン接種が完了し、収束の目途が立った後
- ・市内の感染状況による
- ・感染が終息し、安心して集まれるようになった後

設問8 活動を再開する上で不安に感じていることについて。

選択肢	回答数	回答率*
感染症対策が十分に行えるか	15	48.4%
場所が確保できるか	3	9.7%

担い手が確保できるか	5	16.1%
団体内の感染症に対する考え方の違い	5	16.1%
感染者が出た場合の責任の所在	18	58.1%
その他	6	19.4%
合計	52	

※活動を自粛・中断している団体の各選択肢の選択率

活動を自粛・中断している団体の内、活動を再開する上で不安に感じていることとして最も多かったものが「感染者が出た場合の責任の所在」、次いで「感染症対策が十分に行えるか」「その他」という結果となりました。なお、「その他」の具体的な内容は以下の通りです（一部抜粋）。

- ・感染が収束しない状況下で、高齢者が楽しく集えるかどうか
- ・終息の見通しが立たない中、再開・運営する気力や体力が残っているか
- ・自らが感染症を持ち込むのではないか

設問9 活動の自粛で地域の中で増加すると考えられる課題について。

選択肢	回答数	回答率*
体力の低下	13	41.9%
認知機能の低下	10	32.3%
会話機会の減少	24	77.4%
引きこもり	23	74.2%
ストレスの蓄積	16	51.6%
その他	4	12.9%
合計	90	

※活動を自粛・中断している団体の各選択肢の選択率

活動を自粛・中断している団体の内、活動の自粛・中断で地域の中で増加すると考えられる課題について最も多かったものが「会話機会の減少」、次いで「引きこもり」「ストレスの蓄積」という結果となりました。なお、「その他」の具体的な内容は以下の通りです（一部抜粋）。

- ・利用者、参加者同士の絆の低下
- ・情報（特に近隣の）不足になる

設問10 お互いさま広げ隊の派遣（助言や参考事例紹介）希望について。

選択肢	回答数	回答率
希望する	18	28.6%
希望しない	33	52.4%
未回答	12	19.0%
合計	63	

回答をいただいた団体の内、お互いさま広げ隊の派遣を希望する団体は28.6%、希望しない団体は52.4%、未回答が19.0%という結果でした。

設問11 その他の意見や要望について。

その他の意見や要望については、別添のその他の意見・要望をご参照ください。

5 総括

回答をいただいた団体の内、活動を継続・再開している団体と自粛・中断している団体は概ね半々という結果であり、団体によって考え方は様々であることがわかりました。各団体の代表の方においては、いずれにしても大変難しい判断を迫られたことと推察されます。

活動を継続・再開している団体において、実施にあたってはその多くが感染症対策を徹底したり、参加者の意見を聞きながら開催方法を柔軟に変更するなど様々な工夫がみられます。活動を継続・再開するに至った経緯としては、参加者にとって既に生活の一部となっており、継続・再開を強く希望する声に後押しされたという実態があるようです。

活動を自粛・中断している団体においては、一定数再開を見据えている団体がありながらも、未だ見通しが立たない団体が多くを占めています。活動を再開する上で不安に感じていることとしては、感染者が発生してしまった際の責任の所在など、感染症への強い不安感が拭えないことに起因していることが伺えます。一方で、このまま活動の自粛が続くことで、会話の機会の減少や引きこもりがちになってしまうことへの懸念など、他者とのコミュニケーションや活動レベルが低下することで生じる様々な課題を不安視するなど、葛藤を抱えていることが伺えます。

感染症への考え方は人それぞれであり、団体運営の難しさを痛感させられる結果となりました。

今後もコロナ禍は収束への道筋を描きながらも、しばらく続くことが予想されます。各団体におかれましては、くれぐれも引き続き感染症対策に気をつ

けながらも、心身の健康が維持されることを願うばかりです。

最後に、本アンケートにご協力いただいた団体におかれましては、ご多忙の折、誠にありがとうございました。皆さまの支え合い活動に少しでも本アンケートの結果がお役に立てれば幸いです。

コロナ禍における支え合い活動状況アンケート結果について

令和3年6月

発行：お互いさま広げ隊

豊橋市長寿介護課（お互いさま広げ隊事務局）

〒440-8501 豊橋市今橋町1番地

電話（0532）51-2330

e-mail choju@city.toyohashi.lg.jp
